

ふじもり

NO. 111

富士森高校(全日制)PTA会報

プレアデス星団



撮影者： 都立富士森高等学校教諭 平澤正規

枕草子に「星はすばる」と書かれているプレアデス星団は、太陽系から408光年の彼方にある、生まれて間もない若い星たちの集団です。肉眼でも小さな星がいくつか群れ集まっている様子がわかります。46億年前に生まれた私たちの太陽も、このような星団の星のひとつだったと考えられています。

これらの星はやがて星団を離れ、一人前の太陽として、それぞれが宇宙の闇を照らしていくのです。これから一人一人、様々な人生に旅立つ卒業生のみなさんのように。

卒業おめでとう！

「未来が太陽のように輝く君達へ」



校長 佐藤 公作

富士森高校での三年間、アッ、という間だったのでないでしょうか。皆さんが積み重ねた貴重な経験や充実した高校生活の一つ一つが、これからの皆さんの大切な栄養となるでしょう。

作家の司馬遼太郎さんの著作に「21世紀に生きる君たちへ」という。若い皆さんに生きる目的と希望を与えている短編があります。その中で、司馬さんはこうエールを送ります。「私はときどきさびしく思うことがある。私をもっていなくて、君たちだけがもっている大きなものがある。それは「未来」というものである。……略して私は21世紀というものを見ることをできないにちがいない。君たちはちがう。21世紀をたっぷり見ることでできるばかりか、そのかがやかしいにない手でもある。」

21世紀を迎えても、日本の社会・経済状況は混沌、停滞し、取り巻く環境は多くの不安要素を抱えており、世相も暗くなっています。この閉塞感から日本を救うのは、若い皆さんです。今日から皆さんは、自分で考え、努力し、自分の行動に責任を持って自己実現を図っていく第一歩を踏み出すこととなります。一層学びを深め、見識を高め、自らを厳しく律し、進んでください。些細なことで思い悩むこともあります。しかし、それよりも、大きな夢を持ち、あなた自身ももっている可能性、潜在能力を信じなさい。私は、事あるたびに「あなた自身に備わっている、能力や底力 Fujimori Ability を信じ、それを発揮してください」と伝えてきました。今こそ知性や冒険心、好奇心を持つ時です。それによって、暗い道にもおのずと、光が見えてくるでしょう。短編はこう続きます。「私は、人と違う文字を見るとき、しばしば感動する。ななめの画がたがいに支え合って、構成されているのである。その

ことでも分かるように、人間は、社会をつくって生きている。社会とは、支え合う仕組みとすることである。原始時代の社会は小さかった。家族を中心とした社会だった。それがしだいに大きな社会になり、今は、国家と世界という社会をつくり、たがいに助け合いながら生きているのである。」

先行き不透明なこれからをたくましく生きる基本は、心と体の健康です。今後は自己実現に向けて、独立心と自己抑制、共に生きる人々に共感する寛容さなど、健康で豊かな心を育てていかなければなりません。また、人は、ややもすれば感謝や労りの心を忘れて自己中心的になりがちですが、満足できる状態や幸せな状況になつたと思える時ほど、自分を支えてく

「自分の事大好きになる為の努力—続けたい」

会長 増岡 美奈江



草花の固く閉じたつぼみも、いつしか緩やかにほぐれ、蓄えた地の榮

れる周りの方々への心遣いが大切なのです。どんなに優れた知性や感性を併せ持っていたとしても、相手の目線と話したり、人肌の温もりを持って接したりすることができなければ、知性も感性も意味を成しません。「健康で豊かな心」とか「人肌の温もりと目標」という感情とか態度は、日常の心がけ次第で経験を積み重ね、自分の中に根付かせていくことができるはずで

司馬遼太郎さんはこう結んでいます。「私は、君たちの心の中の最も美しいものを見続けながら、以上のことを書いた。書き終わって、君たちの未来が、真夏の太陽のようにかがやいているように感じた。」

21世紀を支える皆さんの活躍を期待しています。

養をたっぷり含み、暖かく包み込む日の栄養を天から受け、大地に根を張りすくつと誇らしげに咲く花。自然界のこんな姿を、富士森から巣立ち大きく次の世界へ飛び出していく皆さんの姿に重ね合わせてしまいませんか。この先の人生、それぞれが戦う

舞台は違いますが、この三年間の様々な出来事！嬉しくてはしゃいだ時も自然と仲間と手を取り合っていましたか？泣きながらうつつむき加減に過ごした時も、ふっと顔を上げると手を差しのべにっこり笑う仲間の顔があったはず！時には鬼のように厳しいことを言っていた先生の言葉にも、心の深いところにあったか、いものを感じる瞬間があったことでしょうか。そんなひとつも無駄な出会いなどないであろう。人から得た肥しに感謝し、それと同時に自分自身がむしやりに打ち込んできたことの数々、ふっと気付くと人に手を差し出していたらよかったです！いい自分、人前で自分はこう思うとはっきり自己主張できる自分。今まで自分でも気付かなかった部分を沢山発見し、自分自身の中で育てた肥しに自信を持って、この先の人生「自分探し」を止めることなく、人あればこそ自分も生かされている感謝の気持ち、謙虚な気持ちを忘れずに、そして自分の中に眠っている可能性！まだまだ限りなくあることを信じ、そして「自分を大好き」になる材料をもっともっと増やして日々を大切に過ごして行ってほしいと思います。

今期も会員の皆様のご支援・ご協

力のもと、PTA活動も活気ある、充実した行事を多数こなし、次期に繋げるためのラストスパートをかける時期を向かえました。重点支援校として富士森高校のこれからの魅力ある、特色のある教育活動を期待すると共に、根底に流れる心優しい人間創りを、一歩一歩PTA、地域、同窓会様々な方を結集して、大きな力で子どもたちを支えていって頂きたいと願っています。

娘がいてくれたからこそ、三年間PTAに関われたことに感謝しています。出会った方々全てにありがとうございます。



PTA活動の 一年を振り返って

副会長 川井加奈子

一人息子の卒業も間近になり、私のPTA本部役員としての活動もこれで終りかと思うと、淋しい気持ちになります。富士森高校

でPTA活動に参加できたことをうれしく思います。一年間通して校内での活動の他に、第七地区や都高Pの研修会にも参加しました。何と言っても、全国高等学校PTA大会に参加できたことが思い出として残りました。今年の会場は香川大会ということで、「愛と夢、つなごう心の掛け橋で」をスローガンに、全国のPTA関係者が約一万一千人出席しました。あまりの人数の多さで圧倒されましたが、岡本敏子氏の記念講演や歓迎レセプションなど有意義な時間を過ごさせていただきました。

副会長 上原 留美

PTA本部役員になり、昨年度の学年委員長とは違い、より校内校外の行事等に参加することができました。

校内での性教育講座・車椅子体験はとても良い勉強になりました。また校外の都高P・第七地区での講演会・研修会にも数回参加し、他校のPTAの方々への強い思いを感じ取ることができました。今まで知っているようで詳しく

知らなかったAIDSの問題・熊鷹の問題等、とても深く重みのあるものでした。

富士森高校の一人でも多くの保護者の方々にもこのような講演会・研修会に参加していただけたら良いのにと思いました。

一年間ありがとうございました。

【一学年委員会】

一学年委員としては一回のクラス懇談会を行っただけで、皆様の役割に立てたとは言えず心苦しく思っています。

委員になったことで、私も知らなかった方々と親しくなれたことは嬉しいことでした。又、学校の様子を知ることができたことも良かったです。

保護者の皆様方、PTA活動は学校を知る良い機会ととらえ、積極的に参加なさって下さい。私も委員としての役目が終わっても、一人の親としてPTA活動に関わっていきたいと思っています。

この一年間お力添えして下さい。先生方、保護者の方々に心より感謝申し上げます。ありがとうございました。

【二学年委員会】

十六年度の二学年委員会の活動は、例年の委員会と少々目先を変えまして、懇親会を開催せず、その代わりに文化祭に参加致しました。今子どもたちの将来に一番悪影響を及ぼすと思われる「薬物乱用の現状や恐ろしさ」を保護者の皆様にもっとよく知って頂きたいと思い「薬物乱用防止のパネル展示とビデオ上映」を行いました。文化祭の展示中は各クラスの学年委員が名札を付け、来場頂いた保護者の皆様にお茶の接待をして親睦を図りました。

事前に「お知らせ」を配布したお陰で、二日間で百名以上の方にご来場頂き、感謝しております。

【三学年委員会】

三学年は、卒業記念品の決定、「卒業を祝う会」の企画を一年間の活動として進めてきました。委員会も重なるたびに活発な会になっていきました。この一年、クラスの保護者同士の集まる機会がなかったのが残念です。この思いを、卒業式後に行う「祝う会」で、先

生方と三年間の思い出を楽しく飲談できるよう準備をしています。

委員を経験することで、沢山の出会いがあり、そして、貴重な時を過ごすことができました。親として、人間として、学び・成長できたことにとっても感謝しています。一年間、本当にありがとうございました。

【広報委員会】

広報では学期末にPTA会報「ふじもり」の発行に向かって活動してきました。PTA活動の報告はもちろんです。子どもたちの日々の学校での様子を少しでも多く伝えたいという思いで進めてきました。行事、クラブの紹介など、学年ごとにチームを作り、取材に当たるなど、楽しい活動となりました。

クラブ紹介は一年にわたって行いました。今年度のPTA広報「ふじもり」は十七年度の新入学生にも、配られますので、是非、参考にしてもらいたいと思います。取材に快く応えてくださいました教職員、生徒、保護者の皆様に感謝申し上げます。

【教養委員会】

教養委員会は、定例会を持ちながら、保護者の皆様や生徒たちと何かできないものかと考え、活動をしてきました。

今年度は一学期に車イス体験教室、二学期に文化祭への参加・ミニの木を使ったクリスマスリース作り、三学期は観劇会「キャッツ」と四つの活動をしました。

どれも準備の段階から和気あいあいと活動ができました。参加された方からも、なかなかの好評をいただきました。

「えー、初耳」と仰る家庭もあるかもしれませんが、学年を越えた保護者の繋がりや情報交換などでもできますので、緑のプリントをチエックして、これからもどしどしご参加下さい。

私は今年初めて高校生生の親になりました。



1月15日観劇会「キャッツ」の感想より

- 20年前に一度観ましたが、その時とくらべてだいぶパワーアップしていた。
- 猫の動きや動作、それに踊りと歌に圧倒された。
- 21年前に観た時より、猫になりきっていた。
- 悪天候であったが、足を運んで良かった。
- 足音を立てず、猫に扮して、ビックリしました。すっかり、猫の世界に引き込まれました。

家では何を聞いても、「うん・べつに」など短い返事が多く、楽しくないのかしらと心配していましたが、学校へ足を運ぶ時ちらっと覗いて見ると、家とは違ったキラキラと楽しそうにしている様子をみてはっとしました。

親も高校では知り合いも少ないため、行きづらいわろと思っておりましたが、委員会を通して知り合った方が増え、心強く感じています。来年度の皆様のご参加をお待ちしています。



3-5 とのてい組 全員集合!

みんな 見て木

36 TE

6組せいこうさ☆



卒業生に贈る言葉

(三組担任教員)

祝卒業

一組担任 神田 道夫

君の姿が学校内に見えなくなつて、僕は寂しさを感じるのだけれうが、四月になり、また学校生活が始まると、その寂しさは薄れていってしまうだろう。冷たいと思うかも知れないが、別れというのはそういうものだ。しかしその寂しさは心の中に澱となって、時々鼻の奥をツンとさせたり、唇を白を引き起こしたりするのだから。卒業おめでとう。

二組担任 足立 哲哉

卒業おめでとうございます。これからどのような世の中になるのか、予想することの難しい時代だと思えますが、確実に自分の道を切り開いて行ってください。

三組担任 荻田 哲也

卒業するあなたに
遊んでいるよな
小鳥でさえも
生きていくには

世の中には、どうでもいい、
苦労する

という解決方法もあります。あなたの楽しい人生を祈っています。じゃあ、元気で、いつかまた、どこかで……。

四組担任 米山 崇道

成長が目に見えるときがある。今年は特にそれを強く感じた。文化祭の前後ばかり、受験時にもそれが、はっきりと見て取れた。人が人として成長していく場に立ち会えたことを喜びと感じ、また、この学年を誇りに思えます。卒業おめでとう。

五組担任 外塚 浩

卒業おめでとうございます。みなさんの目の前には、無限の可能性が広がっています。ここで学んだことを活かして、自分の未来を自分自身の手でつくりあげていって下さい。夢と希望を胸に、今飛びたつみなさんへ。

六組担任 金子 真弓

卒業して不要になった体育着や体育館履きを西アフリカの途上国「ブルキナファソ」に送ろうと卒業生は準備しました。進んで国際協力をするほどに成長した卒業生を大変頼もしく思います。

七組担任 島田 恵子

富士森図書館へようこそ！

図書室の現状と将来

図書室は戦後、生徒が自分自身で考え、自分自身で決断をするために各学校に必置の施設となりました。その後、様々な状況の変化はありましたが、目的は変わっていません。ただ、時代が変わるようになり図書室も方法は変わってきており、インターネットなどの普及によって、図書室の役割は教材センターから情報センターへと変わりつつあります。

本校でも図書室に二機のコンピュータを常置し、インターネットに対応しています。生徒の利用頻度も高く、情報源として活用しています。活字による情報に比べ、早く、安いという点が評価されています。

このままでは、図書室から「本」が消える日が来るのではという質問を受けることがあります。それは利用する生徒自身の想像力の質によって決定されることとなります。本にしても映画にしても結局は読んだり、見たりする人の想像力をどう刺激できるかで、作品の評価が決まります。活字から生

徒が何の刺激も受けない日が来れば、文化から小説は消え、資料として記録するための活字が残るだけになるでしょう。

しかし、現在でも、図書室から生徒に貸し出す書籍の絶対量は増加傾向にあります。こうした現実から考えると、生徒にとって映像に触発される想像力だけが全てとはなっていないことがわかります。どんなに、インターネットが高速化し、映像を自由に操れるようになっても、生徒の若い感受性に訴えかける活字の特性は失われることはなく、図書室から書籍の消える日は来そうにありません。

情報手段の多様化に対応しながらも、活字文化を継承していくことが図書室の新たな任務として加わってきました。富士森高校図書室では全校的な支援を受けて、新刊書を中心に蔵書の拡大と情報機器の更新、整備に取り組んでいます。保護者の皆様のご理解のもと、さらなる発展を目指したいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いたします。

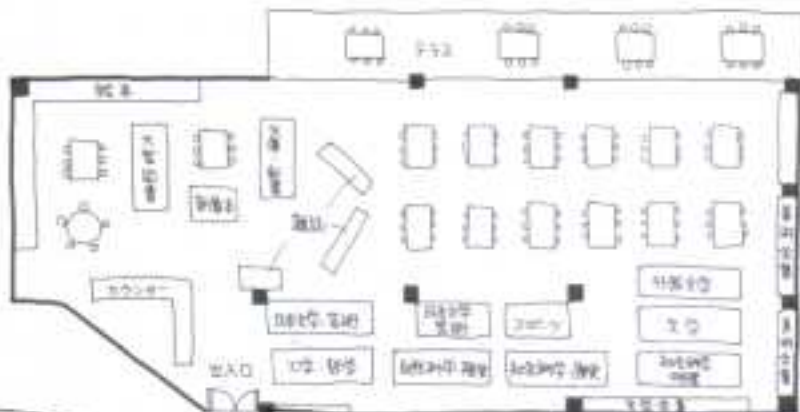
(図書館担当者より)

蔵書数 約30,000冊

開館時間

午前8時半～午後4時45分

*休館や長期休業中の開館はお知らせします。



新着図書案内 2005.1.19

「ブルータワー」 石田衣良 徳間書店
 「そのときは彼によろしく」 市川拓司 小学館
 「いま、会いにゆきます」 市川拓司 小学館
 「深淵 上、下」 大西巨人 光文社
 「センセイの靴」(文春文庫)
 川上弘美 文芸春秋
 「水滸伝15 折戟の章」 北方憲三 集英社
 「介護入門」 モブ・モリオ 文芸春秋

「血と骨 上、下」(幻冬舎文庫)
 柴 石日 幻冬舎
 「アヴェンジャー 上、下」 角川書店
 「いのちの重さ伝えたい」 真鍋和子 講談社
 「ニート」 曲沼美恵 幻冬舎
 「合気道教室 スポーツVコース」 大修館書店
 「教え方の辞典」 小学館
 「原稿用紙10枚を書く力」
 斉藤 孝 大和書房

みんなに読んでもらいたい本

【図書館担当お薦め】

「夜回り先生」 水谷 修 著

(サンクチュアリブックス)

何かをすることではなく、何もしないことも生徒や子どもとの関係を作る方法であること、注意したり、しかったりすることの他に、何も言わないで、だまされたり、裏切られたりするのも親や教員の仕事の一つであることを教えてくれます。

「僕は勉強ができない」

山田詠実 著

(新潮社)

(勉強より素直なことがいっぱいある)ことを忘れてしまった大人たちへ捧げる高校生の話です。もう、ずいぶん昔に忘れてしまった、私たち大人自身が高校生として感じていたことを思い出してみませんか。

【PTA広報委員お薦め】

「君の力になりたい」

古市佳央 著

倉内美幸 絵

(北水社)

十六歳、バイクによる交通事故

で重度熱傷41%という大やけどを負う。苦しみ、傷つき、差別され、それでも人生投げ出さず生きてきた。絶望を希望に変えていく。壮絶な闘病の記録と、充実した人生を送れるようになるまで成長していく心の内を強くつつづっている。自分の体験が役に立てばと本を作ったぞうだ。

【DIVE!!】全四巻

森絵都 著

(新潮社)

高飛びこみという競技の世界の少年たちの物語。中学生と高校生、ダイビングをする仲間たちがオリンピック出場権をめぐる戦いに挑む。迷い、後戻りし、また前進する。心の内面の成長していくさまに引き込まれ、一気に読める。

【世界で一番いのちの短い国】

シエラレオネの国境なき医師団

山本範晴 著

(白水社)

国境なき医師団のメンバーとして活動した日々のノンフィクション。若き医師の壮絶な記録には違いないけど、人間くさいエピソード盛り沢山で(仲間内の人間関係の苦労、日頃の食事など)、一気に読める。五歳の子どもが兵士に

されていたという現実、世界中が知らなくてはいけない事実がいっぱい。

【南総里見八犬伝】全四巻

原作 滝沢 馬琴

編者 浜 たかや

画 山本タカト

(偕成社)

呪われた姫君の霊が八つの球となつてとびちり、八人の犬士が生まれる。やがて八人が出会い、友情の絆で結ばれ呪いを打ち砕いていく。江戸時代の作家、滝沢馬琴の巻でるヒロイズクファンタジー。

愛と勇気と冒険と、ファンタジーの要素はしっかり盛り込まれているから楽しめる。

【シエイクスピアを盗め！】

ゲアリー・ブラッドウッド 著

(白水社)

シエイクスピアが生きた時代の十四歳の少年が主人公。少年は特技の速記術を使ってシエイクスピアの芝居を盗もうとする。思うようにことが運ばなくなってしまう少年はどんな選択をし、どう対処していくか。テンポよい展開にはらはらドキドキの冒険譚。

人権学習講演会 (3学年 12月9日)

講演テーマ 「ハンセン病を生きて」

—尊厳回復の願いと私のたたかい—

講師 森元美代治氏

この講演を聞いたきっかけは熊本の温泉地での宿泊拒否事件です。本校の生徒もまもなく卒業して社会に出て行きます。「しらなかつた。教えてもらわなかつた。」では済まされないかと考え、企画されました。

【生徒の感想】

●今日の講演は私の想像とは違っていました。ハンセン病患者に対する差別を批判するものだと思いましたが、「しじめられてもいい、差別されてもいい」という言葉が出てきたので驚きました。差別されるよりも、する方が後で早く、苦しいこと、相手を攻めるより、先ず自分はどうなのか考えること、日本国民の間違った歴史を認めること、すごく大切だと思いました。生き方の講演という感じでした。

●今回の講演で、誰かが差別することにより、その人の人生も大きく変わってしまうことを、痛切に感じました。最初は何でこんなことを今の時期にやるのかな?と思ったけど、今日、今、この時に、話が聞けて良かった。

紹介活動 <1>

はじける！ 富士森ライフ

——きつと楽しい。まちがいない——

ラグビー部

昨年、一年生が多数入部し、現在部員十三人で活動しています。昨年からは富士森高校単独チームとして、春の大会にむけて頑張っています。部員の一人一人が精力的に練習に取り組み、とてもいい環境になっています。とてもフレンドリーな人たちがばかりなので、やる気のある人の入部を待っています。あとマネージャーも大募集中です！



卓球部



私たち卓球部は二年生五人、一年生五人、マネージャー二人で活動しています。練習日は月・木の週二回です。コーチはいませんが経験者が多く、一・二年生一丸となって日々練習に励んでいます。試合に積極的に参加しています。八王子市民大会等ではシングルの部で優勝しました。これからも卓球を楽しみながらがんばっていきたいと思います。

合唱部

私たち合唱部は、二年生六人、一年生八人の計十四人で活動しています。活動日は月・水・木・金の週四日で、主に文化祭に向けて練習をしています。学年を問わず仲が良く、アットホームな部活です。これからは老人ホームや地区音楽会などにも行き、積極的に活動していきたいと思っています。



服飾文化部

洋服・アクセサリー・小物など、ファッションに興味のあるみなさん、どうぞ服飾文化同好会へ！自分のスキナ日に参加して、スキナ時にスキナだけ作品を作れます。主に、活動は週一回被服室にて☆文化祭では展示会もやりマス。頑張ればショーもできちゃうかも！特にノルマがあるわけでもないから、作るのがスキナだけって人も大歓迎です☆どうぞよろしく!!

国際文化サークル

私たち国際文化サークルは、三年生女子十二人で活動しています。

活動はパソコン室で毎週月・木に行っています。主に海外の人とEメールをしています。英語ができなくても問題ナッシングです。メールのやりとりは個人なので好きな時間に来ることがができます。メンバーの仲も良いので、誰でも気軽に続けられます。部活に入りたいたいけど時間がない人、最適です。



天文気象部は今年一年生が多数入部し、部員十六名で活動しています。毎週月曜日の地学室での活動以外に、月一回の天体観測会を行っています。また、夏や冬は星空のきれいな所に遠征して、ハイテンションで流星観測や天体写真の撮影をしています。今年から部誌を発行しようと計画中です。

天文気象部

部活紹介 <2>

はじける！ 富士森ライフ

——きつと楽しい。まちがいない——

華道部



教員玄関や二階へ上る階段の途中に新しいお花が置かれたら、それは華道部のお稽古があったということ。今年度は部員も増え、文藝祭では大きな作品を仕上げることができました。クリスマス用のアレンジメントにもぎやかに作りました。私たちの腕前も少しは上がってきたのではないかと思っていますが、いかがでしょうか？

クラブ活動報告

<バドミントン部>

東京都新人戦大会 男子団体3位

<吹奏楽部>

東京都高等学校吹奏楽コンクール B組 金賞
多摩アンサンブルフェスタ 木管6重奏 銀賞
金管8重奏 銀賞

◎吹奏楽部第15回定期演奏会

3月21日(月) いちょう大ホール 17時00分開演

曲目 サザンオールスターズメドレーなど

友好交流部

文化祭では「友好楼」もお馴染みになりました。「おいしい」と言っていただけののが何よりの励みです。でも、実は来年はお店を出せないかも、なんて不安を抱いているんです。どうなりますやら!!



生徒たちの気持ちを届けたい！

卒業にあたり、もう使わなくなった体育館履きや体育着などを、アフリカへ贈る事を前身広報「ふじもり」にてお伝えいたしました。この度、贈る先が西アフリカの内陸の国「ブルギナファソ」に決まりました。

集った体育着は生徒たちによって、学校の洗濯機で、靴はひもをはずして、一つひとつ手洗いをしました。後はダンボール箱に詰めるだけ。しかし、輸送料のすべてがまだ集まっています。生徒たちは募金活動を続けています。保護者の方々のご理解とご協力をよろしくお願いたします。

東京都立富士森高等学校(全日制)
PTA会報「ふじもり」No.111

発行日 2005年3月4日

発行者 PTA会長

編集者 増岡美奈江

編集者 PTA広報委員会
委員長 茂野風恵子

〒193-0824

東京都八王子市長房町420番地2

☎(0426)63-0444(代表)

印刷所 (有)はたもと印刷

☎(0426)65-1255